

第8回京田辺市史編さん委員会（会議録要旨）

日 時：令和6年10月11日（金） 15時00分～15時30分

場 所：京田辺市役所 301・302会議室

出席者：〈委 員〉向井委員長、井上副委員長、菱田委員（※）、小林委員、岸委員、

上杉委員（※）、林委員、上村委員、木村委員

※…遠隔での参加

〈事務局〉藤井副部長、坂本室長、大屋担当係長、松本主任、

坂本会計年度任用職員

1. 開会

2. 議事

1) 令和5年度の事業実績について【事務局から説明】

（特に発言はなし）

2) 令和6年度の事業について【事務局から説明】

・令和6年度予算のうち、考古・古代部会は出土遺物調査などを予定しているとのことだ

が、予算が90万円では少なくはない。（井上副委員長）

・昨年度までと同額であり、特に支障はないと考える。（市史編さん室）

3) 既刊について【事務局から説明】

・昨年度末に、京田辺市史としては最初の刊行巻となる『近代・現代資料』を刊行し、また昨年度末には、2冊目となる『地理・民俗』を刊行した。

『近代・現代資料』と同様に『地理・民俗』についても、1部3000円で販売し、市役所や中央公民館の市史編さん室の他、住民センターや山城書店、観光協会のほか、今年度からは新たにアルプラザ京田辺店でも販売を行っている。（市史編さん室）

・各巻何部程度販売しているのか。また、販売促進のために市史編さん室でしている取り組みはあるか。（井上副委員長）

・第3巻は約40冊、第5巻は約50冊を販売している。市のHPでの周知や広報紙への掲載を行っている。（市史編さん室）

4) 今後の刊行巻について【事務局及び岸委員から説明】

・今年度の刊行巻は、『京田辺市史資料編 美術工芸・建造物』を予定している。印刷業者は昨年度と同様に河北印刷となっており、現在校正のやりとりを行っている。また今年度は

『京田辺市史本文編　近代・現代』の刊行も予定しており、ご執筆を進めていただいている。次年度の刊行巻は、『京田辺市史資料編　考古・古代資料』と『京田辺市史資料編　中世・近世』を予定している。これらの刊行予定巻については、これまでに刊行した『近代・現代資料』や『地理・民俗』と同様の体裁ですすめている。(市史編さん室)

- ・現在『美術工芸・建造物』となっている巻名を『建造物・彫刻・絵画』へ変更したいと考えている。美術工芸と銘打っているが、実際には彫刻と絵画の専門家が当該分野について執筆しているため、手に取る方がわかりやすいように巻名を変更するもの。また、本巻は地域別・社寺等別の構成を取っており、項目ごとに執筆者が入り乱れる。可読性向上のためにも項目ごとに執筆者を記名する方式としたい。(岸委員)
- ・同巻では年代の特定などをすることになるだろうから、文責を明示するためにもよいことであると思う。(井上副委員長)

3. その他

1) 市史編さん事業の情報発信について【事務局から説明】

- ・市史の情報は市 HP や facebook で発信しているのか。(井上副委員長)。
- ・市史の情報は市の HP や facebook 等で発信している。(市史編さん室)

2) その他意見等

- ・執筆していくなかで、所在不明の資料の対応を検討している。現在、所蔵者に再度の確認をお願いしているところ。市史刊行までに間に合わない場合は、報告書等の先行する文献の記述を参照しながら執筆を進めていきたい。参考までに情報を共有する。(岸委員)
- ・市史編さん室としてだけではなく、文化財担当課としても所蔵者へお願いを行う(市史編さん室)
- ・販売促進の意味も込めて、市史刊行の節目となる最終年に記念講演会を開催したらどうか。(井上副委員長)。
- ・現在、リレー講座など市史の成果を伝える講座を実施しているところ。記念講演会の実施についても検討していきたい。(市史編さん室)
- ・本文編を執筆する際に既刊資料編を活用しているのだが、ソフトカバーであることもあり本が傷みやすく感じる。(小林委員)
- ・ハードカバーと比較して耐久性が劣る部分もあるが、『地理・民俗』では改良をおこない、耐久性を高めている。(市史編さん室)
- ・ハードカバーを採用しなかったのは経費の問題なのか。(井上副委員長)
- ・第1回市史編さん委員会で、見やすさ・ビジュアル重視の市史をつくることが取り決められた。その際にソフトカバーが採用された。(市史編さん室)

4. 閉会

- ・他に意見がないようなので、これで終了する。(向井委員長)